

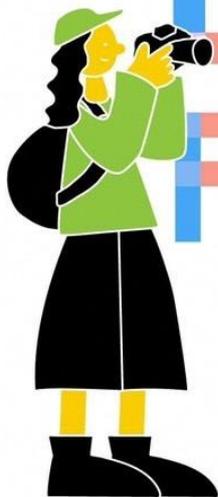


国見町



DESIGN

FIELDWORK



国見町デザインフィールドワーク

8月9日 金



国見町の概要について

町の成り立ちについて



国見町は、昭和**29**年（**1954**年）に藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村の**1**町**4**村が合併し、誕生しました。誕生から**70**年を迎えています。

由来は、現在の阿津賀志山周辺を指す地名として国見という地名が古来から存在しました（国見山、国見峠などと称されていました）。栄えゆく国を眺めるという意味から昭和**29**年の町村合併の際、現在の町名に採用されました。

町の立地について

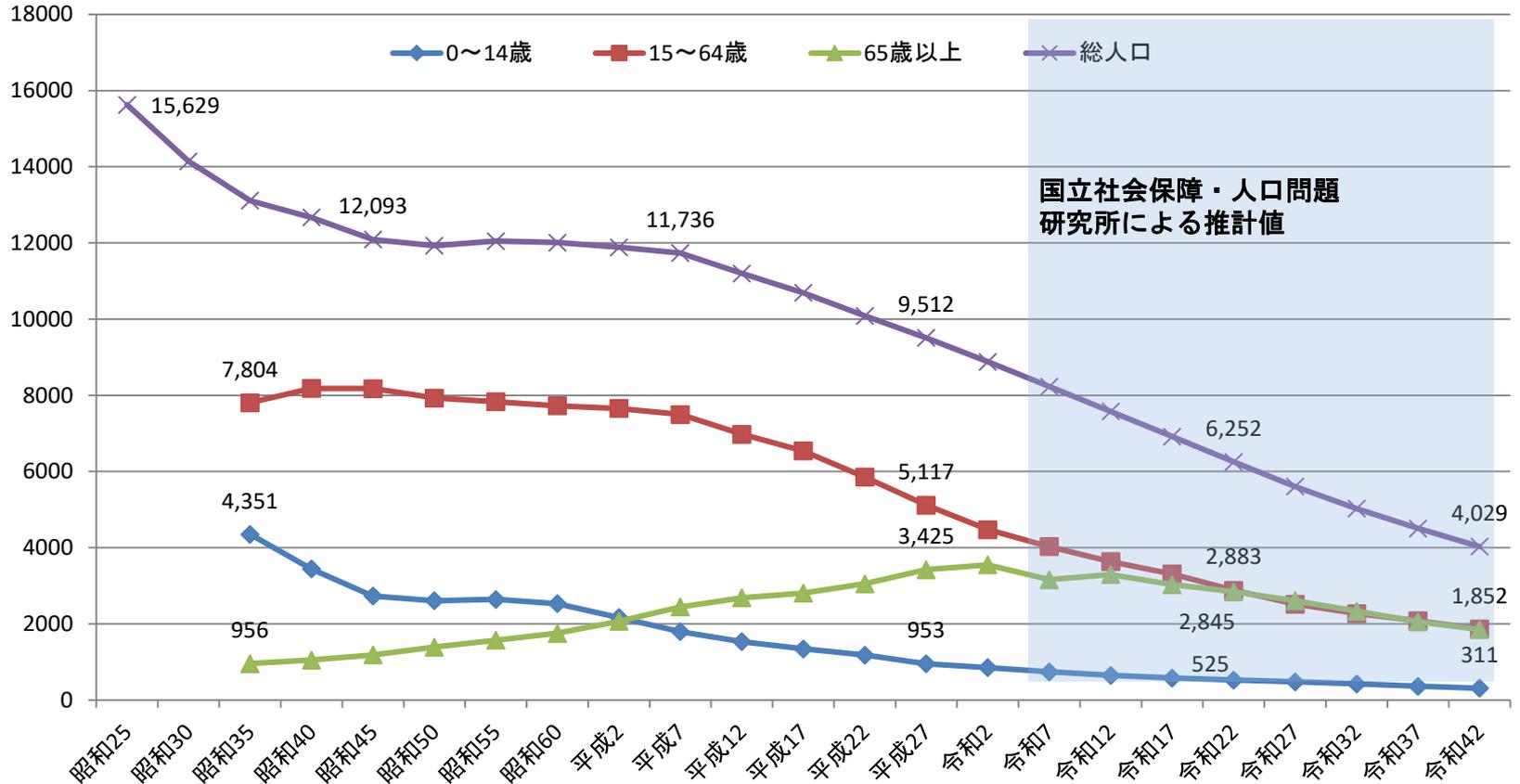


国見町は、福島県の中央北部に位置し、北は宮城県白石市、東南は伊達市、西は桑折町に隣接しています。

奥羽山脈と阿武隈高地に挟まれた阿武隈川水系により形成された福島盆地（信達平野）の北縁部に位置しています。

また、古くから交通の要衝であったことから中世、近世には町内に三つの宿場町が形成されました。現在も国道4号、東北自動車道（IC、SA）、JR東北本線（藤田駅、貝田駅）、東北新幹線が町を縦断しています。

町の人口について



令和4年に人口減少などが要因となり町全体が過疎指定を受けました。

町の人口は8,137人（令和6年6月末時点）。

少子高齢化、人口減少が進んでいます。特に若者世代の町外への転出が多いこと、出生率が県内でも低い数値であることが問題となっています。

産業について



国見町の産業は古くから農業が基幹産業です。米づくりと養蚕が盛んに行われていましたが、近代になり養蚕業から果樹の生産に転換しました。特に桃、りんご、あんぽ柿などが多く生産されています。中でも桃の出荷量は全国9位、町の部1位（平成22年）となりました。肥沃な大地が生み出した土壌と農家さんたちの努力により、多くの恵みにつながっています。

産業について



くにみ農業ビジネス訓練所 トマト養液栽培ハウス



くにみ農業ビジネス訓練所 露地栽培ほ場での実習

基幹産業である農業も、担い手不足が課題となっており、「くにみ農業ビジネス訓練所」での研修生受け入れや、地域おこし協力隊として桃栽培の技術習得を学ぶ取り組みを進めています。

まちづくりについて

まちづくりの基本理念

命を大切に
誰もが幸せに暮らすまち
くにみ

第6次国見町総合計画より